

令和 7 年 4 月 30 日

議会運営委員会会議録

- 1 日 時 令和 7 年 4 月 30 日
開会 10時00分 閉会 11時18分
- 2 場 所 幕別町役場 3 階会議室
- 3 出席者 委員長 岡本眞利子
副委員長 内山美穂子
委員 塚本逸彦 小田新紀 荒 貴賀
野原恵子 田口廣之 谷口和弥
副議長 中橋友子
議長 寺林俊幸
- 4 傍聴者 酒井はやみ
- 5 職務のため出席した議会事務局職員
事務局長 佐藤勝博 課長 岩岡夢貴 係長 渡辺 優
- 6 審査事件及び審査内容(別紙)
 - 1 議員定数及び議員報酬等の見直しについて (第 6 回)

議会運営委員会委員長 岡本眞利子

◇審査内容

1 議員定数及び議員報酬等の見直しについて（第6回）（10：00～11：18）

○委員長（岡本眞利子） ただ今から、議会運営委員会における議員定数及び議員報酬等の見直しについての6回目の会議を開きます。

それでは議案の1、幕別町議会のあり方についてを議題といたします。

4月14日に開催しました第5回の会議を踏まえ、本日は「(1) 住民と議会の距離を縮めるための方策について」と、「(2) 各常任委員会（広報広聴委員会を含む。）の役割と活性化について」の2点について、本議会としてどうあるべきか、どのように改善していけばいいのかなど、本議会のあるべき姿や目指すべき方向性を焦点化するため、委員のみなさまから、ご意見等を出していただき、議論してまいりたいと考えております。

それでは、はじめに住民と議会の距離を縮めるための方策についてご意見等をいただきたいと思います。

ご意見等がある方は、挙手をお願いいたします。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） 具体的な例を挙げていいのですか。広報広聴委員会でも議会報告会をグループワーク方式でやって、自分的には結構良い印象というか、前向きな話し合いが住民の方とできて、住民の方も話しやすい雰囲気であったと思うので、そういったことを回数増やしてやることもあると思います。あと、他町村でもやっているサポーター制度を取り入れる。取り入れても続いていないところも確かにあります。最初に取り入れて終わってしまうこともあるので、どう持続していくかという問題点はあると思います。住民モニターも、いろんな方が来るからという心配もありますが、そういった方の意見も大事にしたい部分もありますけれども、モニターの募集に関しては、各議員が5人くらいずつ誘ってやっているところもあります。あと、僕が前から興味があるのは、今、高校生出前講座をやっていますが、子ども議会をやっているところも結構あって、実際に議会で上がった子どもの政策に予算をつけて、やっているところまであるので、子どもは数十年、高校生だと数年のうちに有権者になっていくので、やはり当事者意識を町民に持ってもらうというのが一番いいなと思います。近いところでは、芽室町では市民ファシリテーターにすごく力を入れていまして、市民自体の議論というか、当事者意識を高めることによって、具体性のある意見が出るので、そういった市民を育てようという運動をずっとやっていますので、時間はかかると思いますが、幕別町もやっていくことは可能かなと思います。やはり研修で山崎先生とかいろいろ呼んだりしていますけれども、そういった政策大学院と包括連携を結んでやっていくということも大事かなと思います。そういったことを通じて、町民と一緒にやっていくことを増やしながら、議員の資質も高めていく、そして研修については、幕別町だけではなく、他市町村にも声をかけて、いろんな人たちとの交流も深めていくというやり方をちょっと考えてみたいなと思います。あとは、通年議会や夜間議会等もありますけれども、なかなかいっぺんには難しいと思いますので、外部の力を借りる、多様な考えを入れるということから考えてみました。

以上です。

○委員長（岡本眞利子） 今、塚本委員から２番目の委員会の項目も入っていましたが、まず始めに住民と議会の距離を縮めるためにということで、ほかにご意見ありましたら、出していただきたいと思います。

野原委員。

○委員（野原恵子） さまざまな町村で工夫されて、住民との懇談を深めていると思うのですよね。資料も集めていただけたということで、意見があったら出してほしいということで、事前に事務局から言われていたのですけれども、ちょっと共産党会派は出していなかったのですけれども、もしそういう参考のものがあれば、ちょっと示していただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員長（岡本眞利子） ただ今の野原委員にお聞きしますが、資料というのはほかの町村ではどのようなことをしているのかという資料でよろしいですか。

（発言する声あり）

○委員長（岡本眞利子） ほかにいかがでしょうか。

小田委員。

○委員（小田新紀） 細かいところで言いますと、塚本委員が言われたようなことをどんどん取り入れていくのがいいと思います。どこの住民の方をターゲットにするかというのも大切かと思うのですよね。それぞれ議員に近い方々というのは、直接お話されているだろうし、いろんなご意見をいただくこともあるだろうなと思いますけれども、接点がない若い人たちにいかに知ってもらうかということ、議員の名前も顔も知らないというのがほとんどだと思いますし、やってはいるけれども、なにをしているのかわからないというのもあるので、アピールではないですけど、ありのままにこういうことをやっているというのを、やはり今の時代ですと、文字ではなかなか伝わらないので、絵とか動画、画像などをうまく活用していくことが必要なと。お金はできるだけかけないということになると、ありきたりですけどSNSを使ったり、特に若い人たちということを考えれば、インスタグラム、この地域の方々に知ってもらうということであれば、フォローしてなくても開けば入ってくるという手法もあるので、そういったことも使ったりですとか、あまり詳しくないのですけれどもAIなども活用したイラストなど、アピールするポスターを作ることもできるみたいですので、そういったことも研究して、目に見える形で知ってもらうということを、今までとは違う形で見せていくことが必要なと思います。ちょっと重なるかもしれませんが、普段関わりがない方にいかに足を運んでもらうかということの一つターゲットにしながら、(2)にも関わるかもしれませんが、塚本委員がお話したとおり、広報広聴委員会では意見交換会でグループワーク方式を取り入れたのですが、いつまでも続くかと言われたら、そうとは限らないのですけれども、一定程度ターゲットを絞った形式を考えていくべきかなと思います。

○委員長（岡本眞利子） ほかにいかがでしょうか。

荒委員。

○委員（荒貴賀） 住民と議会の距離ということで、先ほど小田委員もおっしゃっていましたが、機会を増やすしかないと思うのです。いろんな取組をするなかで、いろんな人に議会に関わっていただくというのがありますし、接点を持ってもらうというのは、今までも取り組んできましたし、これからも取り組む必要があると思っています。

大きい議題なので、具体的にこうしたらいいというのは、常任委員会なり議会運営委員会なりで、具体的にどういったことを進めるかというのは、その都度調整しながら、進めていくことは必要だと思います。とりあえず、縮めないといけないというのは議会として、これからも続けていかなければならない議題の一つですので、一つひとつ取り組んで、成果を出しながら、改善を図りながら、行うことが必要だと思います。私自身もモニター制度は芽室町でもいろんなご意見をいただきながら、人を変えながら行っているということで、成果というわけではないですが、いろんなご意見をいただいているという話も聞いていますので、そういったところからスタートしてもいいのではないかと考えています。

○委員長（岡本眞利子） ほかにいかがですか。

田口委員。

○委員（田口廣之） いろんな意見が出たのですが、もっともだと思います。その中で、やはり自分たちは住民の代弁者というか、そういう住民の気持ちになって議会に臨むべきであると思うし、みんなが声を出してくることって共通の話題とか意見が多かったりするのですが、声なき声というか、声を出さない人の気持ちも汲むような、取組というか気づきだと思えるのですが、そういうことも少し話し合いのなかに入れていったらいいかと思っています。個人的に相談を受けたりすることもあると思うのですが、やはりそういう相談内容によっては、何人かの議員で取り組まないといけないことも出てくると思うので、いろんな方面から知識だとか、事例含めて、必要なことの協議の場にしていけないかと思っています。定数を減らしたあとの議会と住民の接点とか、大きくは変わらないでしょうけれども、やはり変化があるということは、良い変化ならいいけれども、良いほうではない変化では……。今、定数の話になっているかあれなのですが、良い変化になればいいのですが、議会から人が離れていかなないようにするというのも、うちの役目かなと思っています。

○委員長（岡本眞利子） 谷口委員。

○委員（谷口和弥） いろんな意見が出されていて、それらに対しては、どれももっともな意見だなと思って、聞いていました。それに対して、どうのこうのということは、具体的なことはあるにしても、特に言わないで済む中身かなと思っています。あとは、議会として、議会のあり方についてということの議論なのだけれども、今までの意見は議会全体で、議員全体でどうするかということが語られていたと思うのだけれども、なんせ議会に興味を持ってもらう、興味のある人にはより深めてもらう。これが、住民との距離を縮めるということの大局的なことだと思うのです。あとは議員個人として、議会について報告をするなどの行動を起こすことも重要な距離を縮める方法かなと思って、一つ加えていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（岡本眞利子） 内山副委員長。

○副委員長（内山美穂子） 今まで、いろんな委員がいろんなことを話していただいた内容は、それはそれで大変良いことだと思います。この2年間の広報広聴委員会にしても、すごくいろんなことに取り組まれているとは思いますが、現状だからといって、町民がより関心を持ったかと考えたら、町民の関心は、一気に上がるものでもなく、こ

れからいろんなことに取り組んだにしても、難しい面は多々あると思うのですけれども、何もしないでいるのではなく、新たなことに取り組んで、反応を見ながら、先ほども出しましたけれども、なかなかこういう会に参加できない、声を出せない人の声を拾うような場はどういうふうに作ったらいいとか、いろんなことを考えていきたいと思っています。

- 委員長（岡本眞利子） 住民と議会の距離を縮めるための方策についてさまざまなご意見を出していただきましたが、2番目の広報広聴委員会を含む常任委員会の役割と活性化についてのご意見をいただきたいと思います。

ちょっと重なる部分もあるかと思いますが。

塚本委員。

- 委員（塚本逸彦） 先ほどと重なる部分もあるかと思いますが。他町村の例ばかり挙げてあれだと思うのですけれども、参考になった部分がありまして、議会の一般質問の際に、図書館がそれに関する書籍のコーナーを作っていたというのが、インスタグラムに上がっていて、議会だけではなく図書館とも協力して、そういった取組をしているというのは面白いと思ったのと、これも先ほども出しましたが、議会事務局は大変だと思うのですが、これは広報広聴委員会でやってもいいと思うのですけれども、議会のインスタグラムやフェイスブックをあって、今からこういった委員会がありますとかリアルタイムでアップしているところもあったりして、ここまでアップするのかみたいな部分もあったりして、そういったことはお金かけないでやれるので、そういったことからやっていくのもいいと思いますし、各委員会においてもサポーター制度、専門の方を顧問につけるなどして、これは予算の問題もあるかと思いますが、専門性を高めるということも質の向上になると。モニターも常任委員会に入ってもらって、モニターの中から議員になりたいという人が育っていく可能性もありますので、そういった将来性も見据えてやっていくことも考えられるのかなと思っています。

- 委員長（岡本眞利子） ほかにはどうでしょうか。

野原委員。

- 委員（野原恵子） 今の常任委員会の人数というのは、5人、6人ですね。この2年間、総務文教常任委員でしたけれども、総文に関わる所管事務調査を行ってきたなかでは、まだまだ議論しないといけない部分があったと思います。この人数で、議論が十分深まったかという、浅かったのではないかという印象もあるのですよね。というのは、いろんな意見を出してもらうことが大事ということなのですが、そうなるともう少し人数がいたほうが、いろんな見方、考え方、意見を出すことができ、議論を深めることができるのではないかと考えています。(1)の住民との距離をどう縮めるかにも関わるのですけれども、例えば、総務文教常任委員会では、こういう内容で所管事務調査をして、陳情だとかをこういうふうに議論してきましたということで、委員会ごとに地域に出て行って、住民の方にわかっていただく。こういうこともできるのではないかと考えていまして、そう考えると人数があと1人、2人多いほうが、意見が十分出されるかなと思っています。やはりもっと所管事務調査を行うことが必要ではないかと考えております。

- 委員長（岡本眞利子） ほかにはどうでしょう。

小田委員。

○委員（小田新紀） 私も委員会の人数としては、ギリギリのところだなと思っています。少数精鋭という話もあることはあるのですが、今野原委員もお話されたように、さまざまな立場で、さまざまな視点のなかでの議論という部分では、あと1人、2人いれば、なおいいのだろうなというのは思っています、現実すぐ増やせるかとなると難しいと思うのですが、だからといって、二つの委員会を兼ねるかということもなかなか難しいのかなと思っているので、解決策はすぐに出せるものではないのですが、人数的なことと言えば、今の委員会を保つのであれば、ギリギリの状態だと思っています。その上で、いずれにしても私の反省も踏まえて、議員一人ひとりのレベルアップということを目指さないといけないなど。正直なところ、議論を重ねるという部分ではある一つの議題において、理解しきれていないなかで議論に入るといってもいいわけではないというところで、そういった部分の勉強不足も反省しないといけないと思っています。それと、広報広聴委員会はまたちょっと別物のところもあるのかなと思うのですが、2年間委員長をさせていただいて、力及ばずというところもたくさんあるのですが、あれだけの人数がいる委員会なので、今振り返ってみると、お互い役割分担をしながら、例えば、議会だよりの担当であったり、意見交換会の検討を進める担当であったりとか、新たなことを進めるグループであったりとか、もちろんみんな決めていくのですが、そういった企画部会みたいなものがあったのも良かったのかなと振り返っているところではあります。そういう意味では、一つひとつ順番に決めていったところがあるので、時間的にもったいなかったなというところもありました。あと反省のなかでもあったのですが、タブレット端末が導入されて、文章チェックとか事前にそれぞれで出来るという意見も委員から出まして、そういう面では、わざわざみんなで集まって、その時間をとってという部分は、効率的にできて、違う議論にいけるかなと思っています。

以上です。

○委員長（岡本眞利子） ほかにはどうでしょう。

田口委員。

○委員（田口廣之） 常任委員会なのですが、人数的にこのくらいはいないとちょっと委員会のなかの議論が活性化されないのではないかなという思いはあります。前の任期は道外研修がなかったので、今期は、何年かぶりに道外研修があったのですが、委員会ごとの研修の場は行動範囲が広まったことによって、委員のみなさんの行動力とか刺激を受けてきて、良い委員会活動だったのではないかなと思います。それをやはりフィードバックさせて、自分の町がどうかという振り返りがたくさんできた2年間の委員会だったかなと思います。やはりあまり人数を少なくしてしまうと、意見が出づらくなったり、いろんな視点からの見識とか、考え方が取り入れられなくなったりすることがあるのかなと思いますので、適正な人数割合だったのではないかなと思います。

○委員長（岡本眞利子） ほかにいかがですか。

谷口委員。

○委員（谷口和弥） 常任委員会の重要性というのは、はっきりしていて、それに今の委員会優先でやってきているわけだから、それなりの経験も知識も高めていっているなか

での議論にしなければならないと思っています。私が思っていることで言うと、常任委員会が2年で所属が変わるのですけれども、それはどうかなと思っていますのです。2年で変わること、二つの常任委員会に所属できるから、それぞれの所管のなかで議員の知識の幅は広がるけれども、専門性というところでは、ちょっと十分でないところがある。例えば、所管事務調査で何するか決めましようとなったときに、これまでこういったことをやってきているから、決まってないところでのような選択をするということになってきていて、直近でやっていた本来知らなくてはならないようなことも知らないで、それがすでに終わっているという扱いのなかで、次の2年間で始まるということになってきている。自分の中にあるし、全体の流れとしてもそういうことになっていないかなと感じていて、どっちをとるかということなのだけれども、4年間やってみる、より専門性を高めるということも試してみたいところだなと思っていますところ。結局、次に何を所管事務調査やるかとなったときに、何も意見が出てこなくて、正副委員長にお任せしますという、どっちかという受け身なことになってしまう。そういったことが少なくなる手法になるのではないかなと思っていますところ。以上です。

○委員長（岡本眞利子） 内山副委員長。

○副委員長（内山美穂子） 常任委員会の重要性は言うまでもないのですけれども、今、所管事務調査の話が出たのですけれども、調査・研究にどちらかという力を入れていて、過去には政策提言で形にしたということはありませんでしたが、でもそれは本当の意味での私たちが政策提言をしているという形ではないということから、今回は政策提言までには結びつかなかったのですけれども、最初2年間委員会に所属して、いろいろ政策提言はこの前期の2年間はしていなかったのですけれども、やはりいろいろ調査・研究して、アウトプットすることが重要であって、今幕別町の抱えている課題で優先順位の高い課題が所管の委員会にあったとしたら、それをこの2年間で調べて、できれば政策提言につなげていくという形が一番望ましいと思うのですけれども、当初委員会に入っただけで、委員会の内容をわからない状態で、政策提言しますか、しませんかではなくて、ある程度、調査・研究を進めていくなかで、議員間でいろいろと討議だとかするなかで、今後政策提言に向けて、それをある程度テーマを絞って、やっていきたいと思います。なることも大事ではないかと思ったのです。なので、所管事務調査、調査・研究中心ではなくて、それをどういう形で繋げていくかということを考えることも大事なのではないかと思っています。

○委員長（岡本眞利子） よろしいですか。

意見は出尽くしましたでしょうか。

それでは、さまざまな意見を出していただきました。幕別町議会として、住民と議会の距離を縮めるための方策についてと、広報広聴委員会を含む各常任委員会の役割と活性化についての2点の意見をいただいたのですけれども、あるべき姿、方向性がある程度できたのではないかと思います。

次に、あるべき姿、目指すべき方向性に向けて何をどのように議論をし、本町にとっての議員定数を判断するのか、判断するための論点整理と今後の進め方についてご意見をいただきたいと思います。今、目指す方向性ということで、さまざまなご意見をいた

できましたので、このことを進めるにはどのくらいの議員定数が必要なのかということが結びついてくるのではないかと感じると思います。適正な議員定数を判断するためには、必要な議会の目指す方向性ということで、みなさまのご意見があればと思います。

いろんな意見が出て、住民との距離を縮めるにはこうした方がいいのではないかと、また広報広聴委員会や常任委員会ではこんな役割があってということで意見を出していただきましたが、先ほど人数が少なすぎると、委員会の議論にならないのではないかと意見が出ましたので、そこでこれを進めていくには、どのくらいの人数になれば議論が進んでいくのかということを出していただいたほうが、最終的には議員定数に結びついていくかなと思うのですが、いかがでしょうか。

小田委員。

○委員（小田新紀） 提案というか、議会がこうあるべきだということで、意見を出していただいたなかには何一つ否定されるものはなかったと思うのですよね。まず、出されたことをやってみる、出来るところからといたら、いつまでたっても出来てないのですけれども、一個一個やってみるということをした上で、議員定数というところも増やしたほうがいいのか、減らしたほうがいいのかということが最終的に見えてくるのかなと。ちょっと一旦、議員定数うんぬんというのは、保留して、もう少し後になって考えて、まずこれをやってみて、見えてくるもののなかから議論していけばいいのではないかと思います。いかがでしょうか。

○委員長（岡本眞利子） 野原委員。

○委員（野原恵子） 私も小田委員の意見に、その方向性かなと思っています。1番のところでさまざまな意見が出ましたよね。サポーター制度、モニター制度、子ども議会、それからSNS、そういうさまざまな形で幕別町議会の様子をみなさんにお知らせして、住民と距離を縮めるということがいいのではないかと。では、出された意見を今の議員定数と結びつけてどうするかとなると、聞いて終わりになってしまうと思ったのですよね。でしたら、今出されたものをどうやって具体化していくか、どこで議論していくのかというのが疑問に思いました。委員会も同じです。出された意見をどのようにまとめて、どういう方向性で進めていくのかということ、これから議論していくかなと思ったのですけれども、それと定数と結び付けていくというのはちょっと違うかなと思ったのですけれども、どうなのでしょうね。

○委員長（岡本眞利子） ほかにどうですか。

田口委員。

○委員（田口廣之） 今出た意見で、定数の議論に入るのはちょっと早すぎると思っています。一人なのですから、今いろんなこと出たなかで、例えばどれを取り組もうかとか、どれを今年試すと言ったら変だけど、次の定例会から今出た意見のなかの何か一つでもやってみようかとか、そういった前向きな動きをしたほうがいいかなと思います。

○委員長（岡本眞利子） 内山副委員長。

○副委員長（内山美穂子） いろいろ実際に取り組んでみて、定数は定数でという意見は出ていますけれども、今年、これで示されたスケジュールというのが一応ありました。それで、このいろんな新たに取り組んで、いい方向に持って行くことは重要なことなの

ですけれども、定数は定数として、議会運営委員会のメンバーも変わりますし、とりあえず、今後どうしていくかというのを、このスケジュール通りにいくかどうかというのをちょっとこの辺で、同時に住民との距離の縮め方とかは引き続き、検討していきながら、定数は定数で、この時期に見直すのは早いにしても、一定程度のまとめをしないとイケないかなとは思っております。

○委員長（岡本眞利子） ほかはいかがでしょうか。

谷口委員。

○委員（谷口和弥） 各委員の定数の適正化の意見を聞いたときにも思ったのだけれども、なかなか当初の予定通りに決めるというのは窮屈なのかなと思っていたところでした。ゴールはここだと決める議論が、あまりいい結果にならない印象を正直受けていて、定数のことは置いて、議論を続けるのがいいのではないかと考えているところです。

○委員長（岡本眞利子） 会議の途中ですが、一度休憩を取りたいと思います。

（暫時休憩）

○委員長（岡本眞利子） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

ただ今、さまざまな意見が1番、2番に対して出されましたので、これをさらに深掘りしていくということで、いかがでしょうか。

今日さらにこのまま続けさせていただけるのか、それとも新たに日付を設けて、このメンバーが変わる前に議会運営委員会を開催するのか、お諮りしたいと思います。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） 今、みなさんの意見、多様な意見が出ましたので、ここからやろうとすると結構な時間がかかると思います。午後までやってしまうということも可能性としてはありますけれども、一度整理していただいて、実現しないと意味がないので、一気に全部できるわけでもないの、ここからどういったことについてやっていくのか絞り込んでいかなければならないと思いますので、日を改めて、整理したなかで、議案を作っていただいて、やっていただければと思います。

○委員長（岡本眞利子） 内山副委員長。

○副委員長（内山美穂子） 最初野原委員が、資料を請求していましたよね。そういうのもあるので、ワンクッション置いたほうがいいと思います。

○委員長（岡本眞利子） 2名の方から、ちょっと時間をおいて、そして頭の中も整理しながらということで、新たな日付を設けまして、議会運営委員会を開催という方向でよろしいでしょうか。

そして、野原委員からも他の町村の資料などもあるならというお話もありましたので、それまでに議会事務局でも用意していただきまして、そして先ほどお話でもありましたが、もちろん全部できることが良いことだとは思いますが、なかなか順番も優先順位をつけながら、出来るところからまず始めていくというのも時間を短縮できるということもありますので、今出た意見をまとめさせていただきながら、次の議運の会議で進めていきたいと思っています。そして次の議会運営委員会にお願いしながらということで考えるのですが、よろしいでしょうか。

野原委員。

○委員（野原恵子） もう1回議会運営委員会を行うということですね、そこで一定程度、定数も議論するというので、次の議運をということですね。

○委員長（岡本眞利子） では、次の日程であります但し14日が臨時会でありますから、その前までということになりますので、日程的にはいかがでしょうか。

日程の候補なのですが、5月9日に臨時会前の議会運営委員会がありますので、その後はいかがでしょうか。

10時から議運ですので、それが終わった後になりますが、みなさまのご都合はいかがでしょうか。

（よろしいの声あり）

○委員長（岡本眞利子） それでは、次回の議会運営委員会は5月9日、金曜日に臨時会の議会運営委員会終了後に開催させていただきたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（異議なしの声あり）

○委員長（岡本眞利子） それでは、そのように進めさせていただきます。

以上をもちまして、本日の案件は終了いたしました。

これをもって、本日の委員会を閉会いたします。

（11：18終了）